

# マヤの大地を行く



グアテマラを代表する観光地として知られるティカル遺跡。一歩足を踏み入れると、その神秘的な空気に圧倒される



a

地球が減亡するー。  
 2012年、マヤ暦の終末論が世界中をにぎわせたのは記憶に新しい。しかし正しくは、地球が減亡するのではない。種明かしをすれば、「第5の太陽が減び、第6の太陽が生まれる」ということ。メディアがその一部を引用し、騒ぎ立てたに過ぎなかったということだ。  
 しかし幸か不幸か、この終末論により古代マヤ遺跡が注目を浴び、グアテマラに世界各国から観光客が押し寄せた。その数は例年にないほどだったという。

中でも人気だったのが、マヤ最大級の都市遺跡ティカル。6〜8世紀ごろに栄え、高さ50メートルを超える神殿が次々と建設された。世界遺産にも登録されているこの遺跡は、直径約3キロにもわたり、神殿や宮殿、住居跡などが点在している。中でも敷地内に残る神殿群は、マヤ文明の栄華を象徴するかのようになり、堂々とそびえ立っていた。中央広場に面して向かい合う2つの神殿。大ジャガーとも呼ばれる神殿は芸術的な造り。なんとも荘厳な雰囲気をも出し出している。かつて文明が栄えたこの地も、15世紀にはスペイン人に征服され植民地となつてしまった歴史がある。

a.スペイン人が築いたアンティグア・グアテマラ市街に建つカトリックの教会  
 b.民芸品を売り歩く先住民の少女



b



1979年に世界遺産に指定されたティカル遺跡では、2,500年前のマヤ文明の繁栄が垣間見える



ティカル近郊にあるアグアテカ遺跡。かつての王と思われる肖像が石碑に彫られている

密林に埋もれるように残るティカル遺跡



神殿の壁面には装飾されたマヤ文字が残る





首都：グアテマラシティ  
 面積：約10.9万km<sup>2</sup>  
 人口：約1,471万人(2011年)  
 言語：スペイン語、マヤ系言語  
 宗教：キリスト教  
 1人当たり国民総所得(GNI)：2,870ドル(2011年)  
 経路：日本からの直行便はなく、ロサンゼルスやメキシコシティで乗り継ぐのが一般的。  
 通貨：ケツアル(GTQ) 1GTQ=約12.4円(2013年4月現在)  
 気候：5～10月が雨期、11～4月が乾期。標高差により気温は異なるが、首都の年間平均気温は約20度。年間を通じて気温差はほとんどない。



湖畔の村サンティアゴ・アティランでは、今でも男女共に伝統衣装を身にまとう



野菜や果物などが並ぶ露天の青果市。どれも新鮮でおいしそう



伝統衣装を着た女性たちが行き交う湖畔の村アルモロンガ

### グアテマラ料理 カボチャの種が味の決め手 「ペピアン」



グアテマラの主食はトウモロコシ。すりつぶして生地を作り、薄く焼いた「トルティージャ」、葉に包んで蒸した「タマリート」が毎食のように食卓に上がる。コメやパスタはおかずの一つ。塩やコンソメ、トマトソースなどで調理して食べる。

地域や季節によって異なるが、タマネギやトマト、牛肉、鶏肉などがよく使われる食材。淡白な主食によく合う濃い味が人気だ。インゲン豆を煮込んだおかず「フリホーレス」も砂糖は使わず、塩やタマネギ、ニン

ニクで味付けする。

グアテマラの国民食といえば「ペピアン」。どの家庭でもよく作られ、食堂には必ずある煮込み料理。誕生日会や結婚式などのイベントにも欠かせない。料理名の由来は、味の決め手となるカボチャの種「ペピトリア」。肉と野菜にペピトリアを加えてじっくり煮込むと、コクのあるスープになる。辛みを加えたり、野菜を増やしたりと、好みに合わせてアレンジしてもいい。

最近では、ルーを溶かすだけで簡単に作れる「ペピアンの素」が売られているが、「手間と時間をかけて作ったペピアンが一番おいしい」と、みんな口をそろえる。世界のどこでも、おいしさの秘訣は同じだ。



イベントではみんなで大量のタマリートを作る

#### 【材料(4人前)】

肉(種類はお好み)700g/ジャガイモ2個/ニンジン1本/トマト小6個/タマネギ4分の1個/ニンニク2片/パクチー・トウガラシ各適量/食パン2枚/カボチャの種60g/白ゴマ60g/塩少々

#### 【作り方】

1. 鍋に大きめに切った肉、ジャガイモ、ニンジンを入れ、ひたひたの水を加えて軟らかくなるまで煮込む。
2. トマト、タマネギ、ニンニク、パクチー、トウガラシ、小さくちぎった食パンをフライパンで軽く焦げ目がつくまで焼く。
3. 別のフライパンで、カボチャの種と白ゴマを香ばしくなるまで炒める。
4. 2と3を合わせて少量の水を加え、ミキサーにかけたものを、油をひいたフライパンに移し、約20分煮る。
5. 4を1の鍋に加え、塩で味を整えながら約10分煮込んだら出来上がり。

取材協力：JICAグアテマラ事務所



c



d

c.観光客向けにさまざまな色の織物が売られている  
 d.青々とした水面が美しいアティラン湖

そんな数奇な歴史を刻んできたグアテマラだが、今もなお、高地に暮らすマヤ系の先住民たちは素朴だ。標高1500メートルほどのアティラン湖畔には、先住民の村や集落が広がっている。地域ごとに伝統衣装があり、その美しい色合いや刺しゅうを見れば、どの村のものが判別できる。

湖畔の村に行ってみると、大半の人が色鮮やかな伝統衣装を着ている。露天市には野菜や果物などが並び、活気にあふれている。先住民は現代の要素を取り入れつつも、独自の伝統的な生活を守り続けている。古代マヤの都市遺跡が残り、先住民の文化が根付くグアテマラ。からっと晴れた青空の下、色鮮やかな光景が広がる露天市には、誰もが魅了される。

## 1 人材育成



### 日本の算数教育を生かして学力アップ

「教育の質の向上」を政策に掲げる政府の意向を受け、JICAが特に力を入れているのが算数の教育改善。実践的な内容でなかった教科書を一新すべく、教育省とサンカルロス大学の教育関係者、日本人専門家が連携。2008年に完成した教科書は、国が指定する正式な教材として認定され、全国に配布されている。また、暗記中心型から生徒が主体的に学習に取り組む参加型の授業になるよう、現職教員を対象に2年間の研修を実施している。新たな指導法は子どもたちの理解が早いと評判だ。



1996年の内戦終結後、着実に経済成長を遂げ、中所得国入りを果たしたグアテマラ。しかし依然として、都市部と地方での所得格差が大きく、農村部の生活は貧しい。教育、保健医療、インフラの整備などを通じて、JICAは格差の是正を目指す。

### JICAの支援

- 人材育成
- 交通インフラ整備
- 母子保健サービスの向上

## 2 交通インフラ整備



### 道路整備で人々の生活を改善

内戦の被害が特に大きい北部地域を横断し、交通インフラの整備が遅れている国道7号線。住民の生命線だがほとんど舗装されておらず、雨が降ると、山岳地帯では土砂が崩れたり、川に隣接する道は水浸しになったりと頻繁に通行止めになっていた。そこでJICAは、これまで約160キロにわたり、排水設備の付いた道路の整備や、橋の建設を行ってきた。全区間が開通すれば、市場や病院、学校などへのアクセスが改善され、住民の生活向上が期待される。



## 3 母子保健サービスの向上



### 安全なお産で母子の命を守る

妊産婦と乳幼児死亡率が特に高い西部の農村地域では、病院を利用せず、出産の知識や技術なしに自宅で産む人がほとんど。そこで地域の保健センターの医師や看護師を対象に、妊婦健診、出産の補助、出産後のケアの方法などを指導する研修を日本人専門家が実施。妊娠の経過を診察する超音波検査機なども供与した。また住民を対象にワークショップを開き、医師・助産師などの介助で出産する重要性を伝え、保健センターの利用を促している。

